

2015年10月号 小島薬局漢方堂



パンダ通信

ご愛顧ありがとうございます

秋の肌トラブル対策！

10月に入り朝夕の肌寒さも感じる、秋らしい季候になってきました。

秋は気温が下がり、過ごしやすい季節になりますが、漢方ではこの時期の乾燥に注意が必要だと言われています。空気が乾燥しやすい秋は、皮膚の乾燥・赤み・かゆみ等の肌トラブルをうったえる方が多く見られます。

漢方では体が乾燥する原因を「燥邪（そうじゃ）」と言い、秋はこの燥邪(そうじゃ)の影響が強いため、肌トラブルが現れやすい傾向にあります。

「燥邪（そうじゃ）」による皮膚トラブルの多くは、体の外側だけではなく体の内側から皮膚の潤いとなる水分が失われたことによっても現れやすくなります。これは夏に冷たい物の摂り過ぎにより胃腸機能が弱まり、肌への十分な栄養が不足してしまったことが原因となります。

「燥邪（そうじゃ）」は漢方で言うところの『肺』に影響しやすく、『肺』は皮膚と最も深い関わりがあるため、秋の肌トラブルにおいてこの『肺』をケアしていくことが重要になります。

『肺』は名前の通り呼吸器全般と関わりがあるため、肌トラブル以外にもノドが渇く、口や鼻の乾燥、空咳、風邪を引きやすくなるといった特徴や症状がでたり、体内の潤いが減ることで便秘をしやすくなったりもします。

秋の強い乾燥から肌を守るために、優れた保湿力と消炎力を持つ「瑞花露(すいかる)クリーム」や「瑞花露ローション」、保湿力に優れた豊富な栄養を含む沙棘オイルを使ったカプセル「紅沙棘(ホンサージ)」をおススメしています。

また自然治癒力を高め、皮膚症状を改善する「松寿仙(しょうじゅせん)」や「紫華榮(しかろん)」もおススメです！

気になる腰痛・関節痛、不妊症にも！



『益宝(イーパオ)』！



1年も後半になってくると大分肌寒さを感じるようになってきました。

これからどんどん寒さが増してくると気になってくるのが“腰痛・関節痛”です。

漢方では古くから「通じざれば、すなわち痛む」、「榮ざれば、すなわち痛む」という言葉があります。これは気血の流れが悪くなることで痛んだり、栄養が不足することで痛むというものです。

“腰痛・関節”は寒さ以外では、過度の湿気(=湿邪(しつじゃ))や「腎」の機能が弱まった場合によっても現れやすくなります。「腎」には生殖機能やホルモンの分泌、免疫、体内の水分代謝、骨や歯の成長・発育や体の熱を作り出す働きがあり、加齢などでこの働きが弱まると腰痛・関節痛や、寒さを感じやすくなるためです。

この様なタイプの腰痛・関節痛がある方に合う漢方薬に『益宝(イーパオ)』があります。『益宝(イーパオ)』は蟻を主薬に、南五加皮とヨクイニンが配合された製品になります。蟻と聞いて「えっ!？」と思われるかもしれませんが、中国では古くから使われてきた馴染み深いものになります。

蟻には、①免疫力を高め、整える ②性機能を増強する ③炎症を鎮め、痛みをとる ④疲労回復の効果があると言われていて、腰痛・関節痛以外に、五十肩・変形性関節炎・ヘルニア・リウマチなど等の治療や進行予防にも効果的です。

また『益宝(イーパオ)』に使われている管理・厳選された蟻には、亜鉛・マグネシウム・銅・マンガンなどのミネラルと、18種類の必須アミノ酸が豊富に含まれているため不妊症にも適しており、特に男性の精子の数や運動率を上げる働きが期待できます。

“腰痛・関節の痛み”、不妊症でお悩みの方はご相談の上お試し下さい！